

NEWS RELEASE

2019年11月12日

日本豆乳協会

SOY1912

日本豆乳協会

**2019年7-9月期の豆乳類の生産量が109,674kℓ、
前年同期比112.0%を達成**

**～豆乳（無調整）や調製豆乳を中心にさらに市場が拡大し、
すでに2019年の第3四半期において、30万kℓを達成～**

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：重山 俊彦 キッコーマンソイフーズ株式会社 取締役会長、事務局長：川村良弘、以下豆乳協会）では、2019年7-9月期における豆乳市場の動向について、分析しました。その結果、全体で109,674kℓ、前年同期比112.0(%)を達成しました。また、2019年1月から9月における9ヵ月間で、豆乳類の生産量は、302,175kℓに到達しました。

豆乳協会では、定期的に「豆乳等生産量等調査*」を実施し、豆乳（類）市場の動向を確認しています。7-9月期における国内の豆乳生産量を種類別にみると、豆乳類の中で最も生産量が多い調製豆乳の生産量は55,019kℓ、前年同期比109.8(%)でした。また、近年拡大傾向にある「豆乳（無調整）」の生産量は28,390kℓ（106.7%）で、前年同期を上回り、大きく成長しました。また、「豆乳飲料」は、果汁入り4,652kℓ（102.2%）、紅茶やコーヒーに代表されるフレーバー系のその他豆乳飲料は、16,969kℓ（102.0%）という結果になりました。なお、2019年より集計を開始した「その他」の 카테고리（豆乳クリームをはじめ、豆乳ヨーグルトや豆乳鍋などの原材料となる豆乳）の7-9月期における生産量は、4,644kℓとなりました。

この7-9月期においては、ほとんどの種類において、前年同期比を上回っています。引き続き、豆乳（無調整）や調製豆乳が伸びている要因として、健康志向の高まりから、飲用としてはもちろん、豆乳協会が提案している料理に使用する豆乳の需要が伸びたこと、また季節柄、ダイエットやヘルシー志向の人が増え、日常的に豆乳を利用する傾向になったことなどが挙げられます。なお、豆乳飲料については、様々な種類の製品を凍らせてアイスとして食べるトレンドが生まれたことから急激に生産量が増加したこともあり、今期については、昨年とほぼ同様の生産量になりました。

豆乳協会では、2020年には、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を4ℓに増加させ（2016年2.5ℓ / 総人口12,700万人）、年間総生産量を50万ℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発活動を展開しています。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓発活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓発活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

（株）VA インターナショナル
田中/平井

TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017